
暇つぶしの初恋

石井高橋

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暇つぶしの初恋

【Nコード】

N3274Y

【作者名】

石井高橋

【あらすじ】

暇つぶしシリーズ

他のも気が向いたらどうぞ

知らなかった
知らなかった
知らなかった

私はなにも、知らなかった

私がある人と出会ったのは、小学生になってすぐだった。
その人は1個上のお兄ちゃん、静かな人だった。
私はその時追いかけてこをして転んじやって、膝を擦りむいて、
ちよつと血が出て、なぜか怖くて、泣いていた。

その時にその人が通りがかって、すぐに保健室に連れて行ってくれた
保険の先生に消毒してもらって、絆創膏をはってもらった
それでも私は泣いていて
その人は私が泣き止むまで、ずっと傍^{そば}にいてくれた。
昼休みが終わって、5時間目が始まって傍^{そば}にいてくれた。

その人は私が泣き止むと、「それじゃ」とか言って行ってしまった。
私はそれを黙って見送った。

その後も、私はよく怪我をした
時々、その人に保健室で会った、会う事があった。
その人は昼休みに保健室に来ることが多いみたいだ、運動すると気
持ちが悪くなるのか

よく保健室のベッドに寝に来ていた。

私はよく怪我をして、保険の先生と仲良くなれたけど、その人とはあまり話せなかった

とゆうより、話しかけられなかった。

だけどその人の顔をみたり、声を聞くだけで、体がぽかぽかするようないきがして

それが心地よかった

言葉を交わす訳でも、なにかを一緒にするわけでもない

それでも、私にとっては“傍”にいるという事だけで十分だった

たまに少しだけ喋ったりするだけで心はふわふわと天まで上^{そら}って行くようだった

それで私は気づいたんだ

これが“恋”なんだってことに

知らなかった

こんなに幸せな気持ちになれるなんて

知らなかった

こんなに気持ちいが穏やかになれるなんて

知らなかった

こんなに心が暖かくなるなんて

全然知らなかった

その人と私の関係が変わったのは私が2年生になった時だった
別に恋人になったとか、告白したとかそうゆう訳じゃない
初恋は実らないって言うけど、これは無いんじゃないかって思う

お母さんが再婚した

新しいお父さんは酷い事にその人のお父さんだった
私は今までの佐々木の名字から、小川に変わった

私だって兄妹が結婚できないことは知ってる
だから、私の初恋は破れたんだ

知りたくなかった

こんなに悲しいなんて

知らなければよかった

“恋”があんなに愛おしいもなだなんて

全然知りたくなかった！

こんな事ならいっそ出会わなければよかったのに！

私はその夜
独りで^な哭いた

（後書き）

どもです

感想、批評など欲しいです

ッ他のも見えていただけたらうれしいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3274y/>

暇つぶしの初恋

2011年11月13日07時32分発行